

常葉大学
自己点検・評価報告書

令和 2 年度

常葉大学 自己点検・評価委員会

目 次

I 総評	1
II 第1段階評価の担当部局	1
III 各基準における自己点検・評価のまとめ	
基準2 内部質保証	1
基準4 教育課程・学習成果	2
基準5 学生の受け入れ	6
IV 外部評価委員会による評価の概要	7
V 自己点検・評価委員会名簿	8

I 総評

令和2年度は昨年冬に海外からもたらされた新型コロナウイルス感染症の拡大によって、それまで当たり前であった対面授業に代わってオンラインを活用した授業や学生の課外活動の制限等、大学は様々な面で大きく変化を求められた1年であった。そのような厳しい状況の中、本学で定めた全10項目の自己点検・評価の基準のうち、昨年度の自己点検・評価で達成度が十分でなかった「基準2 内部質保証」、「基準4 教育課程・学習成果」、「基準5 学生の受け入れ」の3項目について、本年度、再度の自己点検・評価を行った。その結果、該当の研究科、学部、部局が行った第1段階評価では改善が見られ、第2段階評価でも概ね「評価は適切である」と評価され、積極的に改善に取り組む姿勢が見られた。

しかし、一部「適切でない」と評価された項目もあり、その理由として、昨年同様、根拠資料の不足や抽象的な記述で具体性に乏しい点等の指摘があった。これらの点については、今後も継続して改善していく必要がある。

上記3項目の基準における点検項目数は、38項目であった。そのうち、研究科・学部等における評価の及第点の割合は86%、各部局の評価の及第点の割合は70%となっており、第2段階評価においては、研究科・学部等は81%、各部局は90%がその評価は適正とされていることから、学部、研究科及び部局において、改善及び適正な自己点検・評価に努めていたことがうかがわれる。

第4段階評価である3名の外部評価委員からの評価については、「自己点検・評価はおおむね適切に行われている」との合格の評価をいただいた。今後も引き続いて課題解決に努め、P D C Aサイクルを回しながら、より高い目標を掲げながら、教育研究及び業務の向上につとめていくこととする。

II 第1段階評価の担当部局

基準2 「内部質保証」	学部、研究科
基準4 「教育課程・学習成果」	学部、研究科
基準5 「学生の受け入れ」	入学センター、学長室

III 各基準における自己点検・評価のまとめ

基準2 内部質保証

④ 教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしているか。

(2) 公表している場合、その情報の正確性、信頼性はどのように確保しているか。

学部：昨年度の自己点検・評価において、本項目では10学部すべてが不十分な達成度であった。本年度、再度、自己点検・評価を行った結果、「やや不十分」とした学部は2学部であったが、第2段階評価では、3学部が「評価は適切でない」とされた。適切でない理由としては、令和元年度同様、組織としての確認体制の不備であった。

研究科：研究科においても4専攻に対して、再度、自己点検・評価を行い、「ほぼ確保している」との評価がなされたが、第2段階評価で、1専攻が「評価は適切ではない」と評価された。その理由は、組織としての確認体制の不備であった。

(3) 公表している場合、その情報は適切に更新されているか。

学部：昨年度の自己点検・評価において、本項目を達成していなかった9学部に対して、再度、自己点検・評価を行い、第1段階評価において、「適切に更新されている」とした学部は4学部であ

った。第2段階評価では、対象9学部のうちの4学部に対して「評価は適切ではない」とした。その理由として、客観的資料の不足と組織としての確認体制の不備であった。

●今後の課題

教育研究活動、自己点検・評価結果などの公表は、ホームページや学園内広報紙『常葉だより』などで状況を積極的に公表している。ただし、昨年度同様、情報の正確さや信頼性の確保、情報の更新などに対して、各学部・部局において組織体制を整え、定期的にチェックを行う必要がある。

- ⑤ 内部質保証システムの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

(2) 評価を行っている場合、各学部、学科又は課程では、その自己点検・評価結果に基づく改善・向上を行っているか。

学部：本項目を達成していなかった9学部に対して、再度、自己点検・評価を行い、第1段階評価において、5学部が「行っていない」という結果を得た。第2段階評価で、9学部のうち3学部が「評価は適切でない」とされた。その理由として、改善に向けての検討・準備等に関して十分な説明がなかった。

●今後の課題

内部質保証システムに基づき、各学部において自己点検・評価を行っているが、その結果に基づく改善・向上は十分に行われていない。自己点検・評価結果で終わらずに、明らかになった問題点に対してどのように対応するのかを各学部で体制を整える必要がある。

基準4 教育課程・学習成果

- ① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

(1) 各学部、学科又は課程において定めた学位授与方針は、学生に求めている知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果に合致しているか。

学部：本項目を達成していなかった7学部に対し、再度、自己点検・評価を行い、第1段階評価で7学部がほぼ合致しているという結果を得た。ただ、学部によっては、改訂の必要性を考えている学部もあった。第2段階評価では、すべての学部で「評価は適切である」と評価された。

(2) 学位授与方針は学生にどのように周知しているか。また学外に向けてはどのように公表しているか。

学部：本項目を達成していなかった8学部に対し、再度、自己点検・評価を行い、第1段階評価では「周知・公表とともに十分」と評価したものが2学部、「周知・公表はしているがやや不十分」としたものが5学部、「周知・公表のどちらかが不十分」としたものが1学部であった。第2段階評価では、1学部が「評価は適切でない」と評価された。その理由として、実際に公表している具体的な根拠を示す資料がないことであった。

●今後の課題

学位授与方針について、学生に周知や外部へ公表は、今後は、従来のガイダンスやゼミナール等で説明するだけでなく、積極的にオンラインを活用した学生への周知および外部公表を進めていく必要がある。

- ② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

各学部、学科又は課程では、下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針を設定し公表しているか。

(あ) 教育課程の体系、教育内容

(い) 教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等

(う) 教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な連関性

学部：本項目を達成していなかった9学部に対し、再度、自己点検・評価を行い、第1段階評価で「(あ) (い) (う) ともに十分に行っている」と評価したものが2学部、「(あ) (い) (う) のうち2つは十分に行っている」としたものが7学部であった。第2段階評価では、1学部が「評価は適切でない」と評価された。その理由として、具体的に何をどのように改善するのか明示されていなかった。

●今後の課題

「教育課程編成・実施方針」については、学部では適切に公表されているが、今後『学生便覧』及びホームページを通じて、情報の得やすさにも十分に配慮しつつ、適切に公表することが必要である。

③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

各学部、学科又は課程では、次の各項目についてどのように対応しているか。

(あ) 教育課程の実施方針と教育課程の整合性・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮

学部：本項目を達成していなかった7学部に対し、再度、自己点検・評価を行い、第1段階評価で「配慮されている」と評価したものが1学部、「ある程度配慮されている」としたものが6学部であった。第2段階評価では、1学部が「評価は適切でない」と評価された。その理由として、順次性と体系化への配慮に関して、具体的な記載がなかったためである。

(う) 個々の授業科目の内容及び方法

学部：本項目を達成していなかった8学部に対し、再度、自己点検・評価を行い、第1段階評価では「個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づいていている」と評価したものが1学部、「個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づいていている」としたものが7学部であった。第2段階評価では、すべての学部で「評価は適切である」と評価された。

(お) 各学位課程にふさわしい教育内容の設定（<学士課程>初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等）

学部：本項目を達成していなかった8学部に対し、再度、自己点検・評価を行い、第1段階評価では、「すべて十分になされている」と評価したものが2学部、「一部なされている」としたものが6学部であった。第2段階評価では、1学部が「評価は適切でない」と評価された。その理由として、高大接続への配慮が不足しているためであった。

(か) 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施

学部：本項目を達成していなかった7学部に対し、再度、自己点検・評価を行い、第1段階評価では「十分になされている」と評価したものが1学部、「ほぼなされている」としたものが6学部であった。第2段階評価では、1学部が「評価は適切でない」と評価された。その理由として、学部の専任教員を中心とした教育体制の構築が不足しているためであった。

●今後の課題

概ね教育課程を体系的に編成されているが、より高いレベルの取り組みを行っていく上で、今後も定期的に検証していく必要がある。

④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

- (2) 各学部、学科又は課程では、シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）は適切に示されているか。また、授業内容とシラバスとの整合性は確保されているか。

学部：本項目を達成していなかった7学部に対し、再度、自己点検・評価を行い、第1段階評価では「シラバスの内容はすべて適切に示されている。また、授業内容とシラバスとの整合性も十分に確保されている」としたものが2学部、「シラバスの内容はほぼ適切に示されている。また、授業内容とシラバスとの整合性もほぼ確保されている」としたものが5学部であった。第2段階評価では、1学部が「評価は適切でない」と評価された。その理由として、具体的な根拠を示す資料がないことであった。

- (4) 各学部、学科又は課程では、専門課程の授業に関し、授業形態に配慮した1授業あたりの学生数についてどのような対応がなされているか。

学部：本項目を達成していなかった7学部に対し、再度、自己点検・評価を行い、第1段階評価では「十分になされている」と評価したものが1学部、「ほぼなされている」としたものが6学部であった。第2段階評価では、2学部が「評価は適切でない」と評価された。その理由として、具体的な根拠を示す資料がないことであった。

- (5) 各学部、学科又は課程では、履修指導はどのように行われているか。また、それは適切か。

学部：本項目を達成していなかった7学部に対し、再度、自己点検・評価を行い、第1段階評価では「非常に適切」と評価したものが1学部、「適切と言える」としたものが6学部であった。第2段階評価では、2学部が「評価は適切でない」と評価された。その理由として、記載内容について具体性が乏しいことがあげられた。

●今後の課題

昨年度と比較し、多くの学部が運用上の改善を行っているが、改善を裏付ける根拠資料不足の学部があった。実施内容についての状況を明示できる資料を整える必要がある。

⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

- (3) 各学部、学科又は課程では、成績評価の客觀性、厳格性を担保するためにどのような措置がなされているか。

学部：本項目を達成していなかった9学部に対し、再度、自己点検・評価を行い、第1段階評価では「非常に適切」と評価したものが2学部、「適切と言える」としたものが7学部であった。第2段階評価では、1学部が「評価は適切でない」と評された。その理由として、記載内容について、より分かりやすく具体的な表現を求められたためだった。

●今後の課題

昨年度と比較し、多くの学部が改善を行っている。現状に満足することなくより高い取り組みを目指して、定期的に検証していく必要がある。

⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

(1) 各学部、学科又は課程では、各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標を適切に設定しているか。

学部：本項目では10学部すべてが不十分な達成度であったため、再度、自己点検・評価を行い、第1段階評価では「非常に適切」と評価したものが1学部、「適切と言える」としたものが4学部、「あまり適切とは言えない」としたものが3学部、「指標を設定していない」としたものが2学部であった。第2段階評価では、2学部が「評価は適切でない」と評価された。その理由として、学部専門科目の指標は適切であるが、教養教育を含めた教育課程全体として指標がなされていない点があげられた。

研究科：本項目を達成していなかった4専攻に対し、再度、自己点検・評価を行い、第1段階評価では「非常に適切」と評価したものが1専攻、「適切と言える」としたものが2専攻、「指標を設定していない」としたものが1専攻であった。第2段階評価では、3専攻が「評価は適切ではない」と評価された。その理由として、指標が設定されてない、具体的な根拠を示す資料がない等であった。

(2) 各学部、学科又は課程では、学習成果を把握及び評価するために、次の方法を用いているか。

- (あ) アセスメント・テスト (い) ループリックを活用した測定
(う) 学習成果の測定を目的とした学生調査 (え) 卒業生、就職先への意見聴取

学部：本項目においても10学部すべてが不十分な達成度であり、再度、自己点検・評価を行い、第1段階評価では「(あ)(い)(う)(え)のすべてを用いている」と評価したものが2学部、「(あ)(い)(う)(え)のうち3つないし2つは用いている」としたものが5学部、「(あ)(い)(う)(え)のうち1つは用いている」としたものが3学部であった。第2段階評価では、2学部が「評価は適切ではない」と評価された。その理由として、学部の評価自体に問題があるのではなく、学習成果の把握に関する大学全体の方針が定まっていないことに起因するものであった。

研究科：本項目においては、5専攻すべてが不十分な達成度であり、再度、自己点検・評価を行い、「(あ)(い)(う)(え)のうち3つないし2つは用いている」としたものが3専攻、「(あ)(い)(う)(え)のうち1つは用いている」としたものが1専攻、「(あ)(い)(う)(え)のどれも用いていない」としたものが1専攻であった。第2段階評価では、4専攻が「評価は適切ではない」と評価された。その理由として、具体的な根拠を示す資料等がないことであった。

●今後の課題

昨年度と比較し、学位授与方針に示された学習成果を的確に把握・評価する基準や方法についての(1)(2)については、改善されてきているが、まだ十分とはいえない。引き続き、各学部・研究科において、再度確認し、不十分な点をより改善することが求められる。また、昨年度に引き続き、大学全体の方針を定められていないため今後は定めていく必要がある。

⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

(2) 各学部、学科又は課程では、学習成果の測定結果の適切な活用を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

学部：本項目では10学部すべてが不十分な達成度であったため、再度、自己点検・評価を行い、第1段階評価では「測定効果の活用、改善・向上への取り組みの両方を行っている」と評価したも

のが2学部、「測定効果の活用、改善・向上のうち一方のみ行っている」としたものが6学部、「測定効果の活用、改善・向上への取り組みのいずれも行っていない」としたものが2学部であった。第2段階評価では、2学部で「評価は適切でない」と評価された。その理由として、内容についての具体的な取組が確認できることであった。

研究科：研究科においても5専攻すべてが不十分な達成度であり、再度、自己点検・評価を行い、第1段階評価では「測定効果の活用、改善・向上への取り組みの両方を行っている」と評価したものが2専攻、「測定効果の活用、改善・向上のうち一方のみ行っている」と自己点検・評価したものが2専攻、「測定効果の活用、改善・向上への取り組みのいずれも行っていない」としたものが1専攻であった。第2段階評価では、1専攻が「評価は適切でない」と評価された。その理由として、コロナ禍により研究科内で十分な検討が行われておらず見直しを求められた。

●今後の課題

昨年度と比較し、あまり大きな違いがないため十分に改善されているとは言えない。
P D C Aサイクルをしっかりと回していく上でも、速やかに対応策を協議し、実行に移していく必要がある。

基準5 学生の受け入れ

① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表

入学センター：第1段階評価では「大学及びすべての学部・学科及び研究科で適切に公表されている」と自己点検・評価し、第2段階評価では「評価は適切である」と評価された。

●今後の課題

この項目に関しては、昨年度に引き続き、特に問題はない。今後も定期的に点検を続けていくようとする。

② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

○学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定

入学センター：第1段階評価では「学生募集方法及び入学者選抜制度とともに十分に学生の受け入れ方針に基づいている」と自己点検・評価し、第2段階評価では「評価は適切である」と評価された。

○入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備

入学センター：第1段階評価では「委員会及び実施体制のどちらかが不備である」と自己点検・評価し、第2段階評価では「評価は適切でない」と評価された。その理由として、不備についての内容が具体的に示されていないためだった。

○公正な入学者選抜の実施

入学センター：第1段階評価では「公正に行われている」と自己点検・評価し、第2段階評価で「評価は適切である」と評価された。

○入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

入学センター：第1段階評価では「一定のルールを決めており、十分に配慮されて公平に行われている」と自己点検・評価し、第2段階評価では「評価は適切である」と評価された。

●今後の課題

昨年度と比較し、2年連続、同じ状況であった。問題点が明確となっているので、次年度以降、解決に向けて取り組む必要がある。特に入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制整備について、再点検し、必要に応じて整備する必要がある

③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

学長室：第1段階評価では「ほぼ適正に管理されている」と自己点検・評価し、第2段階評価では「評価は適切である」と評価された。

・編入学定員に対する編入学生数比率

学長室：第1段階評価では「適正に管理されているとは言えない」と自己点検・評価し、第2段階評価では「評価は適切である」と評価された。

・収容定員に対する在籍学生数比率

学長室：第1段階評価では「ほぼ適正に管理されている」と自己点検・評価し、第2段階評価で「評価は適切である」と評価された。

・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

学長室：第1段階評価では「双方の対応がなされている」と自己点検・評価し、第2段階評価では「評価は適切である」と評価された。

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

・収容定員に対する在籍学生数比率

学長室：第1段階評価では「一部の専攻などで管理に問題がある」と自己点検・評価し、第2段階評価では「評価は適切である」と評価された。

●今後の課題

第1段階評価で一部、不十分な取り組みとされた項目については、問題点を明確にし、次年度以降、解決に向けて取り組む必要がある。特に、学士課程における編入学定員に対する在籍管理と修士課程における在籍管理については、定員充足率を上げるためにどのようにしていくのか、積極的に取り組む必要がある。

IV 外部評価委員会による評価の概要

外部評価委員会による評価は、大学内で行なわれた自己点検・評価（第1段階評価及び第2段階評価）の結果を受け、その自己点検・評価が適切に行われているか否かを評価するものである。本年度の結果は、以下のとおりである。

（1）基準2 内部質保証について

自己点検・評価はおおむね適切に行われている。

（2）基準4 教育課程・学習成果について

自己点検・評価はおおむね適切に行われている。

（3）基準5 学生の受け入れについて

自己点検・評価はおおむね適切に行われている。

総評価

昨年度、課題であった内容について、改めて厳しく自己点検・評価を行い、改善に取り組んでいく。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の特殊な事情によって、学部等が対面で一堂に会して協議検討することが困難な時期ではあったが、定期的な自己点検・評価を行った。今後も、現状に満足することなく、よりよい教育の提供と教育活動の推進が継続的に行われることを期待する。

V 自己点検・評価委員会名簿 (学内)

N o.	氏 名	役職等
1	江藤 秀一	学長
2	小田切 真	副学長（静岡）
3	窪田 眞二	副学長（静岡）
4	小田 敏明	副学長（浜松）
5	安藤 雅之	教務部長
6	伊東 明子	学生部長
7	河田 賢一	学長指名
8	兒玉 彦一郎	学長指名
9	小田 寛人	短大部小委員会代表
10	佐々木 弘	事務局長
11	平井 雅孝	学長室部長
12	野中 雅夫	法人本部事務局長